

1月15日の礼拝メモ

『共に交わりを深める教会』

ローマ人への手紙 12:3~18



兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、
尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。(10節)

序]

久留米教会の今年の目標は「愛によって一致し、志を一つにする教会」を目指すこと。(ピリピ2:2) そのために三つのヴィジョンが示された。

- ①共に礼拝を捧げる礼拝 ②共に交わりを深める教会 ③共に伝道する教会
*今朝は、第二のヴィジョンについて学ぶ。

本]

I 教会は交わりを深める場所である

神はこの年、我ら久留米教会に関わる一人一人に望んでおられることは「教会の中で、受身的な傍観者になるのではなく、積極的な教会の建設者になってもらいたい」ということである。教会は、何もしないで自動的に建て上がっていくものではない。ゆえに、我らが交わりをあきらめて、消極的にそれを避けるのではなく、聖書が伝えるように、我らは自分から積極的に交わりを育んでいこうと努力しなければならない。教会は日曜日に礼拝説教を聞いて帰る場所ではない。教会は我らが交わりを築くための場所である。

II なぜ我らは交わりを深める必要があるのか

- ①それによって自分が成長するから。(3)

ある種の自信をもつ必要がある。その自信は人間としての成長につながる大切な要素である。しかし、他者との交わりを拒み、誰からも学ぼうとしなければ、その自信はどうか? 「思い上がり」になる。*だから、自信をもつこと自体は悪いことではない。問題は「思うべき限度を越える」ことである。

- ②それによって教会全体が建て上げられるから。

確かに、神との交わりは個人的な要素が強い。誰かに代わって信仰を持ってあげるわけにはいかない。しかし、神は、その交わりを私的なものに限定することを望んでおられるわけではない。教会のメンバーとシェアし合い、そこに結びつけられる愛によって一致することを望んでおられるのである。それが愛につながっていく。一致を保つために「互いに愛し合うこと」が必要。

- ③それによって世の人々にキリストを知らせるため。(ヨハネ 13:35)

「互いに愛し合うこと」で、我らがキリストの弟子であることを世に知らせることが出来るという。世の人々は、本物の愛に渇き、自分の居場所を求めている。教会の影響力は、会堂の大きさやそこに集まる人数ではない。教会の一人一人がどれだけ互いに愛し合っているかである。

結]

またしても、今年の三つのヴィジョンがつながっていることがわかった。我らの聖日礼拝の場が、最高の伝道の機会になり得る。我らが礼拝において、同じキリストを崇める姿が、うるわしい愛の証となる。